

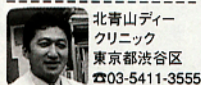
# 効く NEWS 2

## 下肢静脈瘤の最新治療

### 悩める患者に朗報 日帰り治療で完治する 最新レーザー治療

立ち仕事をする人や、出産後の女性に発症頻度の高い病気が下肢静脈瘤。血管が赤く浮かんで、むくみややすい。この病気を、入院なしの日帰り治療で完治させる新しいレーザー治療が登場した。

阿保義久院長



北青山ディー  
クリニック  
東京都渋谷区  
☎03-5411-3555  
「下肢静脈瘤は、さまざまタイプがあります。最近のレーザー治療の進歩はめざましく、皮膚がコブ状に盛り上がる最も多いタイプのほか、赤い血管がクモの巣状に広がるタイプに適したレーザー治療もあります」

**太**もにも血管が赤く浮き出して恥ずかしい。立ち仕事を続けるのと脚がむくんで痛い…

そんな脚のトラブルをもたらす病気が下肢静脈瘤。完治には手術をしなければならぬため、弾力ストッキングなどでのいでのいる人も少なくない。しかし最近、レーザーを使った治療が登場。局所麻酔による日帰り治療で完治可能になった。

下肢静脈瘤は、右下図で示したように、脚の静脈の弁が壊れて起こる病気だ。静脈は、血液の逆流を防ぐため、内部に弁がついているのだが、この弁が壊れると血液が逆流してしまう。

症状には、血管が赤く浮き上がって見えるといった外見上の問題のほか、脚の疲れ、むくみ、痛み、かゆみ、湿しん、潰瘍などが表れることもある。

比較的軽症の場合は、硬化療

法(傷んだ血管内に硬化剤を注入して閉鎖する)や高位結紮術(痛んだ血管を縛って切り離す)といった治療法もあるが、これらはいずれも再発しやすいという欠点があった。

これに対して、手術治療は弁が壊れた静脈を引き抜いてしまふ。症状の原因となる血管そのものが無くなるので再発はない。しかし、強い痛みを伴うため、全身麻酔や半身麻酔が必要となり、体への負担が大きい。

「下肢静脈瘤は、命にかかわる病気ではないので、治療のメリットとデメリットを考えたら、なるべく患者の負担が軽い治療法であるべき。そこで負担が小さくて、手術並みに再発率が低い治療法として注目したのが、レーザー治療だった」と、北青山ディークリニックの阿保義久院長はいう。

レーザー治療では、脚の表面

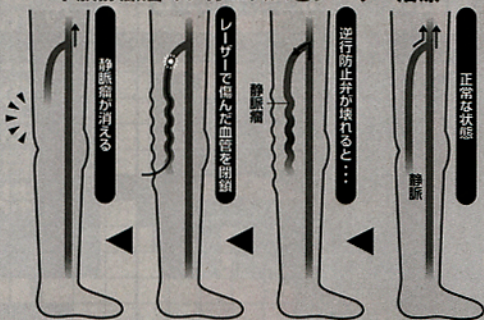
に小さな傷をつけ、そこから治療する静脈の中に、細いレーザーファイバーを挿入。レーザーの熱で静脈の内側を焼いて閉鎖させてしまう方法だ。重症患者の多い欧米ではひと足先に普及していたが、従来の装置では熱が加わる範囲が広いため血管以外の組織にも影響が出るという欠点があった。

「しかし、昨年開発された新しいレーザー装置は、血管の内部だけをピンポイントで焼くことができる優れた装置。幅広い患者に適用できることから、国内への導入が進み始めた(阿保院長)。

残念ながら現在は健康保険が適用されておらず、北青山ディークリニックにおける治療費は25万円だ。しかし、1回の治療で脚の不調を解消できるとあって、治療を希望する患者が増えているという。

(荒川直樹=科学ライター)

### 下肢静脈瘤のメカニズムとレーザー治療



弁の壊れた静脈に、レーザーファイバーを挿入。レーザー照射しながら引き抜き、血管の内部だけを焼く。

脚の先まで送られた血液は静脈を通して心臓に戻る。このとき血液が重力の力で逆流しないように守っているのが弁だが、太い静脈が合流する部分では弁が壊れやすい。弁が壊れると血液が逆流して血管内にとどまり、コブのように膨らんでしまう。

### 下肢静脈瘤の主な外科治療

主な治療法	やり方	メリット	デメリット
高位結紮術	脚の付け根の血管を縛ってから切り離す治療。	外科治療だが、局所麻酔だけで日帰り治療が可能。	再発することが多いため、硬化療法を併用することも。
ストリッピング手術	弁の壊れた血管を引き抜いてしまう手術。	再発率が低く、一番確実な治療法である。	麻酔や手術後の痛みなど、患者の体の負担が大きい。
レーザー治療	レーザー光線の熱で、血管の内側を焼いて閉鎖。	再発率が低く、しかも患者の体の負担が小さい。	健康保険が使えない。長期の臨床データがない。

### 下肢静脈瘤のレーザー治療に積極的な医療機関

医療機関・診療科	医師名など	所在地・連絡先
福島県立医大病院 心臓血管外科	佐戸川弘之	福島県福島市 ☎024-547-1111
両国あしのクリニック	広川雅之	東京都墨田区 ☎03-5625-8441
湘南鎌倉総合病院 外科	日帰り手術センター	神奈川県鎌倉市 ☎0467-46-1717
高知大学病院 外科2	松本康久	高知県南国市 ☎088-866-5811